

### ○池添夢昇

1つ目の那賀川床上浸水対策工事では、ICT建機を初めて見てとても簡単に動かせたのでビックリしました。高度な技術がなくても最初に建設機械にデータを入力することによって初心者でも動かせました。

2つ目の横断道岡川ランプ橋下部工事は高速道路を造ることによって住民が便利になる工事でした。地域住民に事前に建設の許可を得てからでないと言えないと聞いて工事だけではなくて地域との交流の大切さも学びました。

3つ目の現場ではタイヤローラーを操縦させていただきました。作業員の方は簡単に動かしていましたが、実際に操作すると動かしにくかったです。作業員の方の凄さを実感しました。

4つ目の陸上競技場の工事では測量を自動追尾でしていました。ICTのお陰で時間が短縮され、楽になったと言っていました。普段、利用している構造物もこのように一生懸命造ってくれたと思うので感謝したいです。

### ○井坂 翔

現場見学会を通して、工事現場で使用されている機械にはGPSが備わっていることを知って驚きました。これまで自分で機械を操作して工事をするのは、とても難しいことだと思っていました。しかし、実際にICT建機に乗って運転を体験すると、思った以上に簡単に操作できて、とても楽しかったです。また、運転操作を工事現場の方々から丁寧に教えていただき、大変分かりやすかったです。

工事現場で働くことはとても難しいと考えていましたが、現場見学会を通して、最新の機械や技術を使って簡単に工事ができると感じました。しかし、事故や大変なことになってしまう可能性もあるので、建設業に就くことがあれば、手順を確認し、正確に物事を進めるようにしたいです。今日学んだことは、将来必ず活かされると思うので、忘れないようにしたいです。

### ○井村冬弥

僕が今回の現場見学会に参加して思ったことは、人との繋がりの大切さです。4つの現場を見学しましたが、どこの現場でも人との繋がりを大切にしていました。地域住民との繋がりがや職場の仲間との繋がりを大切にされていました。僕も日常生活や学校生活をする上で人の繋がりを大切にしていきたいと思います。

また、建設機械はほとんどの現場でICT建機を用いていました。現代社会においてはコンピューターを用いたICTなどの事業が多くあります。建設業ではバックホウなどの建設機械がそうでした。タブレットでプログラムを作り、操作を制御しているそうです。ICT施工について、もっと学びたいと思いました。

僕は将来、建設関係に就職したいと思っており、現場見学で学んだことを就職の際に活かしたいと思いました。また、人との繋がりを大切に、今後の学校生活を送りたいと思いました。

## ○岩佐隼斗

今回の現場見学会に参加して、印象に残っていることが幾つかあります。まずは、転圧ローラーに試乗したことです。最近のローラーは運転席にモニターがあり、それによって転圧の管理をするらしいです。とても運転がしやすかったです。

2つ目はバックホウです。モニターを見ながら作業をするので初心者や女性でも簡単に操作できます。僕も操作を体験しましたが簡単に操作できました。また運転をしてみたいです。

3つ目は、現場の方が人との繋がりが大切と言っていたことです。どの現場でも近所の人たちや職場の仲間との繋がりを大切にしていました。僕も身近な人を大切にしようと思いました。

最後は陸上競技場の現場です。競技場を造ることはなかなか無いと現場の方が言っていてビックリしました。僕は将来建設業に就職したいと考えているので現場見学会で学んだことを忘れずにしたいです。

## ○岩田宏夢

今回の現場見学会で、僕もこういう仕事をするのかと思いながら見ていました。クレーンとか簡単そうに動かしているけど、ちょっとミスしたら大変なことになります。全員、毎日命がけの仕事をしているのが分かりました。作業員の方たちは仕事がキツくて何回も心が折れそうになったと言っていました。でも、何回もチャレンジすることで自信に変わったと言っていました。自分も失敗を恐れずに何事も挑戦していきたいです。

最近では就業人数も少なくなって若手が貴重になってきたと言っていたので、僕達が建設業に就いて活躍できるよう努力していきたいです。この仕事は将来、生活に欠かせない職業であり、やりがいのある仕事だと思っています。現場監督の人が特に少なくなってきているそうです。しっかりと勉強をし、資格も取って、苦手なパソコンもタイピングが早くなるようにしたいです。

## ○江口航輝

いくつかの建設現場を見て一番思ったのは、どの機械も動かし方が難しいだろうなということです。少しでも操作を間違えると勝手に動いて暴走して事故になったりするので危険だから、そう思いました。見ているだけで大変さが伝わってきました。

加茂谷川の堤防工事では、中学校の2階まで水が浸かったと聞いて、とても驚きました。工事前の川はくねくねしていましたが、工事後にはシンプルな真っ直ぐになるので氾濫しづらいと思うので良い工事内容だと思いました。

僕は完成するまでに期限があることを初めて知りました。これまでの自分はいずれ完成すればいけるのだろうと甘く見過ぎていました。期限があると知って急がなければならないけど、事故が無いよう丁寧に工事するのは凄いなと思いました。将来、土木関係の仕事に就いたら、今日学んだことを活かしたいです。

## ○大西真翔

僕は今回の現場見学会でたくさんのことを学ぶことが出来ました。一番印象に残っているのは、ドローンを使って3次元測量を行い、ICT建機で施工することです。重機の免許を取ったばかりの初心者でもデータを入力すれば操作をサポートしてくれると聞いたので安心して作業することができると思いました。自分は、就職したい職業がまだ分からなかったけど、今回の現場見学で建設

業の会社で働いてみたいという希望が持てました。

横断自動車道の工事では、これだけ大きな規模の工事になると完成した時の達成感は大きいだろうと想像し、とても興味を持つことの出来る現場でした。このような見学ができて凄く嬉しかったです。実際に阿南光高校の卒業生が現場で働いている姿を見て、僕もこれから頑張っていきたいと思いました。

### ○尾崎将樹

現場見学会を通して、全ての現場で共通していたのが安全を第一にし、早く、丁寧に今後のことを考えて施工しているということを知りました。いろいろな会社と助け合って作業をしているのを知り、安心感があるなと思いました。

僕は将来、家を建てる仕事をしたいと思っています。現場見学会で、自分たちが造った道路や建物は一生残るからやりがいがある、と聞いて僕も早く仕事をしてみたいと思いました。また、昔と違って建設機械も進化しており、初心者でもベテランと同じように動かせるようになっているのが凄いと感じました。

建設業で働く人が少なくなっていると聞いたので、勉強を頑張って施工管理技士や建築士の資格を取って自分の作品を一つでも多く造っていきたいです。建設業の仕事は達成感が得られることを知り、楽しそうに見えました。

### ○尾畑 翔

現場見学会に参加して僕も建設業で働きたいと思いました。一人ひとりがしっかりと働き、全員が楽しそうに作業をしていて雰囲気良く、働きやすそうな環境だと感じました。最近は ICT 化ということで作業がとてもしやすくなって作業時間が手短になるのがメリットだと分かりました。実際に転圧ローラーに乗って運転を体験させてもらいましたが、とても簡単で、モニターによる転圧の管理によって作業が効率的だとおっしゃっていました。このような機械を使う現場が多くなって時代は進化しているのだなと思いました。

この見学会で学んだことがたくさんありました。将来の自分はどのような仕事が合うのかを考えるきっかけになりました。このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。また機会があればよろしくお願いします。

### ○片山巧実

1つ目の現場は加茂谷川の堤防で、ICT 建機の油圧ショベルやタイヤローラーなどで造っていました。油圧ショベルはコンピューターを使って掘削し、タイヤローラーはコンピューターを使って締め固めをしていました。

2つ目は大野町の高速道路の現場を見学しました。地中に 20 メートルの深さまで大きな穴を開けて、その中にコンクリートを入れて南海トラフ地震にも耐える支柱を造っていました。

3つ目は那賀町の現場を見ました。那賀町は大雨の時に川が氾濫して建物が浸かるという災害があり、堤防を造っていました。

4つ目は桑野のアグリあなんにある陸上競技場でアスファルトをやっていてその工事を 1 回ぐらいいしてから赤いアスファルトにするという工事を見ました。

将来、土木関係の仕事をするので現場見学は役に立ったと思いました。

## ○香留陽生

僕は、現場見学会に参加して、建設系学科からいろいろな職業に就くことが出来るのだと初めて知りました。最初は現場を4カ所見てもやっている作業はどれも同じだろうと思っていました。実際に見学してみるとそれぞれの現場で違う作業をしていました。しかし、現場の方の表情や話していることは共通するものがあると感じました。皆さん明るい表情で仕事をし、自分達で造ったものが後に残るのが嬉しいとか、人に喜んで使ってもらうことが嬉しいと話されていました。みんな、自分の仕事が好きで誇りを持って仕事をされているのだなと思いました。

僕は卒業後の進路についてまだ決めていませんが、もし、建設業に就いたら現場の人たちと同じように自分の仕事に誇りを持って働く大人になりたいと思いました。

## ○久保田健心

現場見学でたくさんの事を学んだり、体験することができました。

那賀町の現場では、実際に転圧ローラーに乗り、運転や締め固め作業を体験させていただきました。自動車よりハンドル操作の反応が少し遅いことを知りました。自動車の運転をしたことが無いので分かりませんでした。意外と簡単に運転できました。また、ディスプレイに表示されている施工範囲が青色になると転圧作業が完了ということも学びました。この現場では ICT 施工をされており、3次元設計データを作成し、建機にプログラミングするので測量作業がいらぬという事も学びました。

現場見学会は、自分たちの将来に繋がる大事なことを学ぶ貴重な時間でした。建設業に就職したら、今回学んだことを活かして働きたいです。そして、自分が造ったものが一生残る喜びを体験したいです。

## ○数藤颯大

今回の現場見学会ではバックホウや転圧ローラーなどを間近で見られて、とても迫力がありました。転圧ローラーには実際に試乗しました。転圧ローラーは地道な作業でしたが、とても大切な作業だと教えていただきました。バックホウは自動整地アシストや自動停止制御などが付いており、本来は熟練オペレーターでないと出来ないようなことも出来てしまう時代になったと聞き、とても驚きました。初心者も操作さえ覚えれば上手く出来ることから、技術の進歩は凄いなと思いました。

各現場の資料を見て、計画平均図などの内容が凄く難しいと思いました。しかし、設計図書の内容を理解しないと作業が出来ないので大変な仕事だなと思いました。陸上競技場の整備工事では凄い体験をさせてもらいました。完成したら凄い達成感があるのじゃないかと思います。自分も将来はやりがいのある仕事に就きたいです。

## ○住友優大

僕はこれまで工事現場はそれぞれ全く違うものだと思っていました。しかし、初めて現場見学会に参加して社員の方々の話を聞くと、造るものは違っても社会の役に立つといったやりがいや目標は同じだと感じました。また、どの会社においても事故が起きないように安全管理を心掛けておられました。

僕は将来、建築・土木いずれかの建設業に就きたいと考えています。自分も将来、現場において地図に残る構造物に携わり、家族に自慢できるようになりたいです。そのために高校3年間でしっ

かりと勉強し、資格も積極的に取得していきたいです。

### ○高木陸翔

見学会に行く前までは、現場は緊張感が漂っていて厳しい雰囲気に含まれており、怖い感じなのかなと思っていました。現場見学会に行くと実際は雰囲気が良くて、緊張感はあるけど張り詰めた空気というわけでもなく、現場にいる方々が全員楽しそうに仕事に取り組んでおられ、すごくいいなと感じました。

また、最近の建設機械には GPS が搭載されていて作業の簡略化を図ったり、初心者でも簡単に作業ができる点がすごくいいなと思いました。このようなことから、自分も建設現場で働きたいという気持ちが以前より強くなりました。そのため、しっかりと勉強をして就職した時に現場の方々の足を引っ張らずに少しでも力になれるようにしたいと思いました。それと挨拶の大切さなども改めて知ることが出来たので誰にでも気持ちの良い挨拶が出来るように心掛けたいと思います。

### ○高倉一騎

今回、現場見学に参加して、普段の授業では体験できないことを学びました。土木施工の授業で勉強をした重機を生で見て、試乗することもできたのでとても充実した見学会になりました。自分が将来働くかもしれない建設業を体験することができたことに感謝をしながら見学をすることができました。

また、阿南光高校ソフトテニス部の先輩が働いている現場も見学させていただき、身近に感じました。現場監督をする人が年々減少していると聞いたので、僕は現場監督になって後世に残るこのような仕事を受け継いでいきたいと思っています。そのために一生懸命勉強をし、たくさんの資格を取得して、見学をした企業の方々のように市民の役に立って誇りに思える仕事をしたいと思います。作業をすることは決して楽なことばかりではないと思いますが、完成した構造物がずっと残っていくと考えたら苦にならないと思いました。

### ○多田恵吾

今回、現場を見学して普段の授業で得ることの出来ない経験をしました。これまでは建設業のイメージがなくて、理解が出来なかったことも実際に見ることによって沢山のことが理解出来ました。また、全ての現場でどんな質問に対しても真剣に答えてくださりました。クラス全員に配られた資料やパンフレットも作るのに時間がかかっているのだろうなと思いました。ありがとうございます。

各現場では、それぞれの仕事を担当する職人さんがいました。誰一人ミスすることなく作業をしているのはとても凄いことだと思いました。作業時間を割いて僕達に教えてくださったことを忘れずに、もっと沢山勉強をして、将来は建築士になって誰かに喜んでもらえるような建築物や橋を造りたいと思いました。

### ○谷 悠叶

今回の現場見学は、普段見ることが出来ないところをたくさん見せていただき、とても良い経験になりました。

最初の現場ではすごく大きなバックホウがありました。そのバックホウは危険を察知すると自動で停止し、事故が起こらないよう制御しているということでした。また、コンピューターが指示を

して簡単に操作できるので便利な機械だなと思いました。

次の現場では基礎杭の作業で 20 メートルの深さまで掘っていました。掘削作業は何本も同じことを繰り返すので大変だなと思いました。

那賀町の現場ではドローンによる測量で作成した 3 次元データの説明がありました。少しのズレでも最初からやり直しになると聞いて大変だなと思いました。

陸上競技場の整備工事では、まだコートは完成していないけど、観客席などがきれいに造られていたのすごいなと思いました。

## ○谷 侑哉

今回の現場見学会で貴重な体験をしました。

1 つ目の現場では、タイヤローラーの体験をしました。ICT 施工で転圧をモニターで確認して転圧回数が色で分かるようになっていました。

2 つ目の現場では、工事を始める前に近所の家に挨拶へ回ったり、新しい資材の購入や管理など工事の大変さを教えていただきました。

3 つ目の現場では現場の雰囲気が高く、とても楽しそうな現場でした。僕も働くのであればこういう現場で働きたいです。

四つ目の現場ではアスファルトの敷均しをしていました。作業は力仕事かなと思っていたけど、そんなに力仕事という感じではありませんでした。ICT 化がこんなにも仕事を負担できるなんて思いませんでした。僕は力仕事が苦手なので、ICT などの技術を学んで将来に役立てるよう努力していきたいです。

## ○谷崎大輝

現場見学会では、普段見ることの出来ないものばかりでした。その中でも、バックホウなどの ICT 建機が凄いなと思いました。法面を同じ勾配で何度もトレース出来て凄かったです。

陸上競技場の整備工事では、この春に卒業した先輩が働いていました。アスファルトを敷設するのは暑くて、特に真夏はとても疲れるし、熱中症の危険性もあると話していて、そのような中、仕事をするのは凄いなと思いました。実際に現場の仕事を目の当たりにして、授業中に見る画像とは全然迫力が違いました。画像や動画で見た建設機械に実際に乗らせてもらいましたが難しそうでした。転圧など同じ作業を四時間もすると聞いてビックリしました。地盤を締め固める作業は時間をかけて行う大切な作業だなと思いました。

今回は貴重な体験が出来ました。機会があればまた参加したいです。

## ○田村陸人

加茂谷川の現場では、ICT 建機のバックホウがあり、入力したデータどおりに掘削が出来ることから、便利で初心者にも安心だなあと感じました。

横断道の現場では、橋脚の下部工事を行っており、いろいろな重機と多くの会社が関わっていました。一日でも早く地元の人達に使って欲しいという気持ちが感じ取れました。

那賀町の現場では、ドローンによる撮影や複雑な作業をしていて難しそうでしたが、従来の測量よりも正確で早いんだろうなあと感じました。

陸上競技場の整備工事では、完成後にここでプレーする選手が最大限の力を発揮できるような工

夫が感じ取れました。

僕は、現場で働いている全員が夢を持って元気で明るく作業をしているんだろうなぁと感じました。僕も将来はその一員となって働きたいと思いました。

#### ○田村康雄

今回、4現場を見学させていただき、現場における大変さややりがいを感じられる仕事であることが分かりました。現場で大変なところは安全第一に仕事をしていかなければならないことです。事故を起こすと作業を中断しなくてはならなくなり、工事が遅れてしまい期限までに終わらなくなってしまいます。あと、工事を始める前には近所の方々に「工事をします」と周知を知り、とても大変だと思いました。しかし、それを乗り越えて完成した時やこれからも一生残ると思うととてもやりがいを感じるそうです。

現場を見学してこういう建設関係の仕事にとっても興味が沸きました。4現場とも違う作業をしてきたけど、想いは全員同じだと思いました。現場見学会をとおして実際に働いている方から仕事の大変さややりがいを聞いてとても勉強になりました。

#### ○次原 渉

現場で働く方の姿を見て、自分はやはり建設関係の仕事に就いて働きたいと思いました。どの現場の方達も明るく優しい人ばかりで僕達も気持ち良く現場見学ができました。現場の方は、苦しいこともあるけど自分たちが造った橋や建物が地図に残ることにやりがいを感じるとおっしゃっていました。また、建設業の仕事は人手が足りないということを知りました。危険な仕事もあるし命に係わるようなこともあるけど、この仕事は地域の人役に立ち、感謝されるようなとてもやりがいのある仕事だと思いました。

建設業で働くために学校でしっかりと力を身につけ、将来は社会に貢献できる人物になれるようにしていきたいです。どの仕事が自分に一番合うのかをよく考え、進路選択をしていこうと思いました。本当に良い経験になりました。

#### ○松下悠生

現場監督の方々がおっしゃっていた「構造物を造った後の達成感を感じられる」という言葉を聞いて、僕は改めて建設業の仕事に就きたいと思いました。僕の父は同じような仕事をしています。幼い頃から見ていて興味があったので、今回、見学に行けてとても嬉しく、以前より更に興味が沸きました。僕は不器用なので、現場の方が器用に作業をしているのを見ると不安になりました。しかし、力には少し自信があるので力仕事もしたいと思いました。

僕の勝手な偏見ですが、現場の方々は上下関係が厳しく、上司が部下に対してキツく言ったり、大袈裟にいうと軽いパワハラがあるところだと思っていました。しかし、実際は新人の方に暖かく接しておられ、とても安心しました。

今まで怖いイメージを持っていましたが、優しい方ばかりで、今回の見学会でこれまでのイメージは無くなりました。

#### ○森吉隼士

僕は最初、建設機械の操作が難しくて、自分は作業するのに向いていないと思っていました。し

かし、実際に現場を見学してみると、ICT 建機がほとんどで自分でも出来そうだと思います。現場監督の方達が「この仕事は完成した時の達成感がいい」と言っていました。僕もそんな仕事をしたいなと思っています。ただ僕は指示を出すのがすごく苦手で、言われたことをやる方が楽しいです。なので、建設業に就くならずずっと作業をしたいです。それでも達成感はすごくあると思うので、卒業後の進路として考えておきたいです。

今回の見学会はすごく進路選択の参考になりました。建設現場の雰囲気や、そこで働いている人の話を聞いて、建設業の仕事をやってみたいと思うようになりました。自分に合っている仕事だと思ったので、これからもしっかりと勉強していきたいです。